

2023年

12/16(土)  
17(日)

## 第7回 多文化社会実践研究フォーラム

# 難民・避難民対応から見た 多文化社会の課題

～市民社会において専門職はいかに取り組むか～

ラウンド  
テーブル

実践研究  
発表

シンポジウム



日本では「外国人労働者導入」が進められているものの移民政策はない中でウクライナ避難民の受け入れが進み、多様な課題が浮き彫りになっています。フォーラムでは、政策問題に留まらず、さまざまな領域、地域、役割等から発信される実践を、参加者どうしが聴き、語りあいながら、多文化共生社会に向けた実践に生かす場にします。

### 対象

- 自治体、国際交流協会、社会福祉協議会などで多文化共生施策に携わる職員
- 日本語教育、法律、医療、福祉などの各分野で多文化社会に関わる専門職
- コーディネーター、相談・コミュニティ通訳者などの多文化社会専門職
- その他、多文化社会に関心のある方ならどなたでも

会場

**東京外国語大学**

(東京都府中市朝日町3丁目11-1)



会場アクセス

12月16日(土) 15:00~18:30

- ラウンドテーブル
- 交流会

12月17日(日) 10:00~16:00

- 実践研究発表
- シンポジウム

参加費

TaSSK会員 2,000円 一般 3,000円 学生500円  
オンライン 1,000円 (シンポジウムのみ)  
\*別途交流会 500円 (当日支払い)

申込

下のリンク、もしくは右のQRコードからお申し込みください。12月13日(水)締切  
<https://tassk-forum07.peatix.com>



申込先リンク



一般社団法人 多文化社会専門職機構 (TaSSK)

office@tassk.org (03)6261-6225 <http://tassk.org/>

共催 東京外国語大学多言語多文化共生センター



第7回 多文化社会実践研究フォーラム

# プログラム (予定)

**12月16日 (土)**

**ラウンドテーブル 15:00～17:20** ＊発表者調整中

お互いに異なる領域で活動する人たちが少人数のグループで学び合うセッションです。語り手が自らの実践や研究テーマについて語り、聴き手はその語りを文脈に沿いながら聴き、お互いに意見や情報を交換し合います。所属や職を超えて、同じ学びの探究者として語り合しましょう。

ラウンドテーブルⅠ (15:00～16:00)

ラウンドテーブルⅡ (16:20～17:20)

**交流会 17:40～18:30**

参加者どうしの交流・ネットワーキング

**12月17日 (日)**

**実践研究発表 10:00～12:35** ＊発表者調整中

発表者が多文化社会に関わる自らの実践研究について報告するとともに、聴き手との質疑応答・ディスカッションを通じて研究テーマを深めるためのセッションです。(発表、および質疑応答・ディスカッションはそれぞれ20分間程度)

セッションⅠ (10:00～10:45)

セッションⅡ (10:55～11:40)

セッションⅢ (11:50～12:35)

**シンポジウム 13:30～16:00**

「難民・避難民対応から見た多文化社会の課題～市民社会において専門職はいかに取り組むか」  
多文化社会の現在地を俯瞰しつつ、最前線に立つ専門職の立場から見える課題について共に考えます。

**基調講演 「多文化社会の今日的課題と市民的専門職」**

渡戸一郎 (明星大学名誉教授、元移民政策学会会長)

**パネルディスカッション**

土井佳彦 (NPO法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事)

矢崎理恵 (社会福祉法人さぼうと21 学習支援室チーフコーディネーター)

横山由利亜 (日本YMCA同盟社会協働・人道支援プロジェクト責任者)

渡戸一郎

進行 奈良雅美 (特定非営利活動法人アジア女性自立プロジェクト 代表理事)

**閉会 16:10**